

**令和6年度 特別支援教育部 調査研究事業計画【新規】****1 主題について****(1) 主題**

特別支援教育における主体的・対話的で深い学びを実現するための ICT 機器の利活用に関する研究～自立活動の視点に着目して～（令和6年度～令和7年度）

**(2) 設定理由**

令和3年1月の文部科学省「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」では、「ICTの利活用等により教育の質の向上を図ること」などが示された。また、文部科学省は、特別支援教育における ICT 活用の視点として、教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために、ICTを活用する視点と障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを活用する視点の二つの視点を明示している。これを受け、第3次千葉県特別支援教育推進基本計画では、GIGAスクール構想が打ち出される中、障害のある子供たちの ICT の効果的な利活用により、学びをどう深めるかも喫緊の課題であるとされており、ICTの利活用による教育の質の向上を図っていくことの必要性が明示された。

このような状況の中、文部科学省が実施した調査「令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」において、大項目B「授業にICTを活用して指導する能力」では、全国平均78.1%なのに対し、千葉県は76.5%と平均を下回っていることも報告されており、同調査「令和4年度中にICT活用指導力の各項目に関する研修を受講した教員の割合」でも、全国平均73.0%に対し、千葉県は61.6%と低い数字が示されている。

これらの現状を踏まえ、県内の特別支援教育における ICT 機器の効果的な利活用により、主体的・対話的で深い学びを実現し、子供たち一人一人の学びをどのように深めているか現状を把握するとともに、授業実践における利活用に関するモデルケースを提案し、幼児児童生徒の資質・能力の向上につながる教育の充実を図りたいと考えた。

**2 研究の目標**

特別支援教育における ICT 機器の効果的な利活用により、主体的・対話的で深い学びを実現し、子供たち一人一人の学びをどのように深めているか現状を把握し、自立活動の視点に着目した授業実践における ICT 機器の利活用に関するモデルケースを提案する。

**3 調査研究の内容**

- (1) 質問紙調査等を通じた特別支援学校及び特別支援学級の ICT 機器の利活用における実態把握と課題分析
- (2) 調査研究協力員からの ICT 機器の利活用に関する意見等の収集
- (3) 調査研究協力校における ICT 機器を利活用した授業実践を基にした事例集の作成

#### 4 調査研究の方法

- (1) 年間3回の調査研究協力員会議（第1回、第3回は講師を招聘）
- (2) 基礎研究（令和6年度）
  - ア 質問紙調査等を通した県立特別支援学校及び特別支援学級の教育課程におけるICT機器利活用に係る実態の把握及び課題分析
  - イ 分析に基づく、実践事例集（骨子案）の作成
- (3) 実践的研究（令和7年度）
  - ア 調査研究協力校におけるICT機器を利活用した授業実践
  - イ 授業実践に基づく実践事例集の作成

#### 5 研究組織

調査研究協力について

- (1) 指導助言講師  
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部  
織田 晃嘉 主任研究員
- (2) 調査研究協力員 11名  
特別支援教育課 1名  
県立特別支援学校 5名  
各教育事務所管内 小・中学校特別支援学級 教諭 5名  
※知的特別支援学級2校、自閉・情緒学級3校  
※講師及び調査研究協力員は、令和6年度から令和7年度までの2年間とする。
- (3) 調査研究協力校 10校（協力員の所属校が兼ねる）

#### 6 研究計画

令和6年度から令和7年度までの2年計画

| 令和6年度                                                                                                                                                                           | 令和7年度                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○調査研究協力員会議の実施<br>（年間3回） <ul style="list-style-type: none"><li>・ 6月28日（金）</li><li>・ 11月22日（金）</li><li>・ 1月31日（金）</li></ul> ○質問紙調査及び調査結果の分析<br>○実践事例集（骨子案）の作成<br>○調査研究協力校における授業実践 | ○調査研究協力員会議の実施<br>（年間3回）<br>※6月頃、11月頃、1月頃<br>○調査研究協力校における授業実践<br>○実践事例集の作成<br>○成果物のWebアップ<br>○広報資料作成（リーフレット等） |

#### 7 効果の検証の方法と内容

- (1) 調査研究協力校における実践事例集（骨子案）を活用した指導計画の作成や授業実践を通して、必要な改善を重ねて実践事例集を完成させる。
- (2) 令和7年度に、調査研究協力員や授業者から聞き取り等（質問紙調査）を行い、実践事例集の有効性を検証する。
- (3) 調査研究の成果物を、令和8年度の千葉県総合教育センターが行う研修の講座で活用し、その研修に対する受講者の評価をとって効果検証を行う。